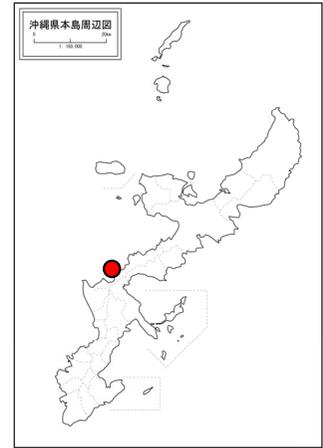


15. 【陸域：陸上養殖】 閑漁期の収入増に資する陸上養殖施設の整備：前兼久漁港（沖縄県恩納村）

概要

- 恩納村漁協では、平成元年度より養殖研究を行い、平成6年度には生産体制、品質管理、販売方法の基本体制が整備された。
- このため、前兼久漁港では、養殖用作業施設用地を活用し、海水かけ流し式のウミブドウの陸上養殖施設を整備した。
- 年間生産量は30tであり、生産コストの低減や生産量の増加・安定化に寄与している。



背景

- 恩納村の主要な漁業は海藻養殖であるが、その漁期は冬である。
- そこで、恩納村漁協と組合員は、夏場でも養殖可能な海藻として海ぶどうの養殖が開始された。
- しかし、海面養殖は夏場の台風の影響を受けやすいため、被害防止することを目的とし、陸上養殖施設を整備することとなった。

有効活用の内容

- 養殖用作業施設用地を活用し、ウミブドウの陸上養殖施設を整備した。
- 飼育に必要な海水は漁港内の水深2mから取水し、かけ流しにしている。
- 周年養殖が可能であり、年間6～8回収穫している。収穫したウミブドウは漁協が買取り、県内向けに出荷している。
- 生産者は月額8,000円の使用料を払い施設を利用している。餌代が不要であるため採算性が高い。

活用した漁港施設	養殖用作業施設用地
実施時期	H13年度
実施主体	整備：恩納村 運営：恩納村漁協
活用した事業	沖縄県米軍基地所在市町村活性化特別対策事業
実施した手続き	占用許可、漁港施設用地利用計画変更

前兼久漁港



養殖施設の内部



養殖施設の外観

養殖施設の位置

効果

- 平成6年に養殖が開始された時点では年間5tであったが、前兼久漁港で陸上養殖施設を整備した平成13年には47tとなった。現在は30t前後を推移している。
- 恩納村の主要な漁業である海面養殖（モズク・アーサ）は冬が漁期であり、夏場の収入は減少していた。通年で収穫できる海ぶどうの陸上養殖により漁業者の収入安定が図られている。また、高齢となった漁業者の所得の安定にも効果を発揮している。